

令和5年度沖縄県教育委員会研究指定校 (SDGs 達成のための教育実践)

那覇市立城西小学校 令和5年11月22日(水)

参考資料

- ①『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(文部科学省)
- ②『小学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省)
- ③『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』(文部科学省)
- ④『持続可能な開発のための教育(ESD)』

<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> 閲覧日:6月7日

- ⑤中教審『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf 閲覧日:6月7日

- ⑥持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引

https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf 閲覧日:6月8日

ESDとSDGsの関係

2002年12月 第57回国連総会本会議

「持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年、DESD)」

日本が2005年から2014年までの10年間で「持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年、DESD)」を提案。その結果、ユネスコ(国連教育科学文化機関)を主導機関としてESDを推進するという決議が採択
DESD: United Nations Decade of Education for Sustainable Development

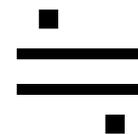
2015年9月 国連決議

持続可能な開発目標「SDGs (Sustainable Development Goals)」

発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む2016年から2030年までの国際的な目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成。

2017年3月 学習指導要領の告示

ESD
(持続可能な開発のための教育)



学習指導要領

学校教育におけるESDの位置付け—学習指導要領とESD

学校教育におけるESDの位置付け—学習指導要領とESD

文部科学省「持続可能な開発のための教育」(ESD)

○ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。

ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。

校内研究でやるべきこと

- ① 学習指導要領に基づいた教育を実践。
- ② 「①」の中でも「総合的な学習の時間」に重点を置いて、資質・能力の育成を目指す。

ESD (持続可能な開発のための教育) = 学習指導要領

ESDを中心とした総合的な学習の時間で育む資質・能力

○「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力)⇒資質・能力化

ESDとSDGsの関係

持続可能な開発目標「**SDGs** (Sustainable Development Goals)」

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む2016年から2030年を期限とする包括的な17の目標及び169のターゲットにより構成。

文科省⇒SDGs達成のための教育(ESD)の推進

ESDの位置付け

① 目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置付け。

② ESDは、ターゲットの1つとして位置付けられているだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものである。

(2019年 第74回国連総会)

持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育(目標4)の実現に貢献するもの

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

質の高い教育
をみんなに

SDGsは現代的な
課題なので、総合
的な学習の時間を
中心に扱う。





ESD 持続可能な開発のための教育

持続可能な開発目標(SDGs)の17のグローバル目標

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習内容の具体化をとした「質の高い教育」を目指すことが、他の16個のグローバル目標につながる。

SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」を中心に城西小でのESD教育を推進する。

ESD教育について(まとめ)

～ESD(持続可能な開発のための教育)と授業づくりを中心に～

(1) 城西小の学校教育目標を「学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力」の視点から資質・能力の育成として、学校の教育目標を明確化する。

※学校教育目標を変えるのではなく、文科省が「生きる力」を「資質・能力の三つの柱」に表現を変えて、教育課程での具体化を図ったように、学校教育目標(知・徳・体)を基に教育計画として「資質・能力の三つの柱」として具体化する。

(2) 「①」を基に「総合的な学習の時間」の「資質・能力の三つの柱」を決定する。

ESD教育について(まとめ)

～ESD(持続可能な開発のための教育)と授業づくりを中心に～

- (3) 従来の教育課程を学習指導要領の前文や総則の観点に従って再検討する。
- (4) 「総合的な学習の時間」の時間の指導計画の見直し
 - ① 従来の指導計画を「総合的な学習の時間」でESDを通して育成する資質・能力の観点から見直す。
 - ⇒ 「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力
 - ⇒ 「探究のプロセス」≡「問題解決的な学習」の学習過程の確認
 - ⇒ 単元の見直し(資質・能力の育成を期待できる内容)
 - ⇒ 長期的な単元の設定(学期に1単元等)
- ※ 資質・能力の育成は長期的な取組が必要。
- (5) 教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメント

教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメント

- 1 現在の教育課程(教育計画)から学期ごとの教科等で取り上げられている「現代的な課題」をテーマにしたものを抽出する。
- 2 「1」の結果から、その教科等の内容と関連がありそうな現代的な課題を想定し、地域との関連を検討する。
- 3 「2」の結果から、学期単位を想定して取り組める「総合的な学習の時間」の単元づくりを進め、順次、実践する。
- 4 「3」が探究的な学習になるように単元デザインをつくる。
- 5 「総合的な学習の時間」の実践の記録(特に省察や児童の考察等)を確実に取って、研究を進める。

学校教育目標

- 進んで学び
- 明るく思いやりのある
- たくましい健康な子

変える
必要なし

「見直し」

学校教育目標の 資質・能力化(案)

- 知識・技能の習得
⇒事象から「問い」を見出して、見通しをもって学ぶ力
(例)
- 思考・判断・表現力の育成
⇒自分の考えをもち、人・もの・ことの間を他者と協働して考え、まとめる力(例)
- 学びに向かう力等の涵養
⇒自己を振り返りながら、広い視野で自他のことを考えようとする力(例)

現在の教育課程

教科
総合的な学習の時間
道徳

特別活動
生徒指導

「見直し」

学習指導要領

持続可能な社会の創り手
資質・能力の育成

新しい教育課程

ESD教育

持続可能な開発のための教育での資質・能力(仮)

「見直し」

総合的な学習の時間

現代的な課題を中心とした探究的な学習

単元デザイン化

教科等横断的

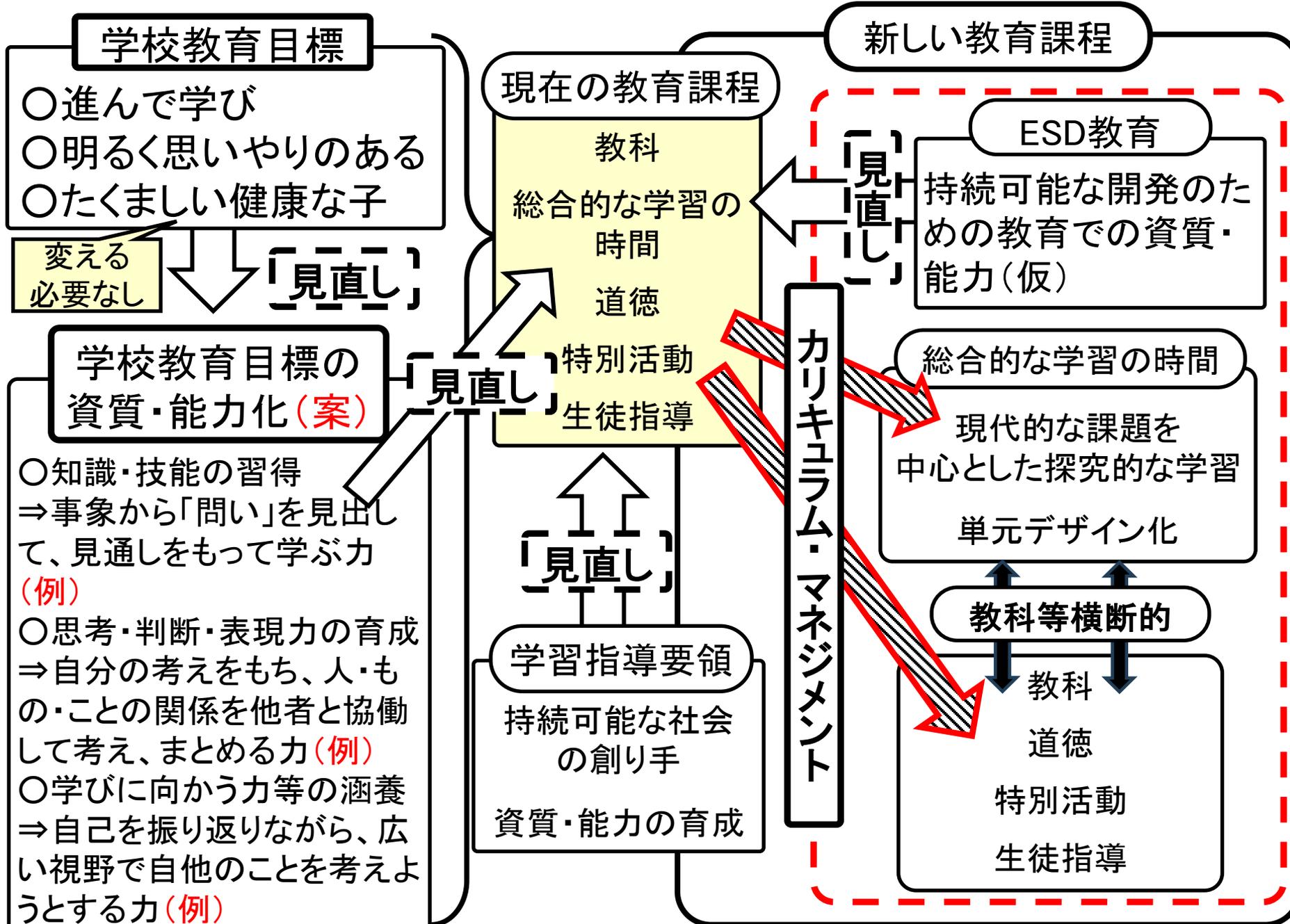
教科

道徳

特別活動

生徒指導

カリキュラム・マネジメント



SDGs 達成のための教育実践に向けた 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

城西小の資質・能力の三つの柱

学びに向かう力等

○自他の違いを受け入れ、よりよい人間関係を築きながら協働して社会に参画する力

知識・技能

○自己実現に向けてねばり強く取り組みながらの知識・技能の習得・活用

思・判・表現力等

○集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、社会の一員として課題を解決していく力

総合的な学習の時間の 資質・能力

学びに向かう力等

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

知識・技能

探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

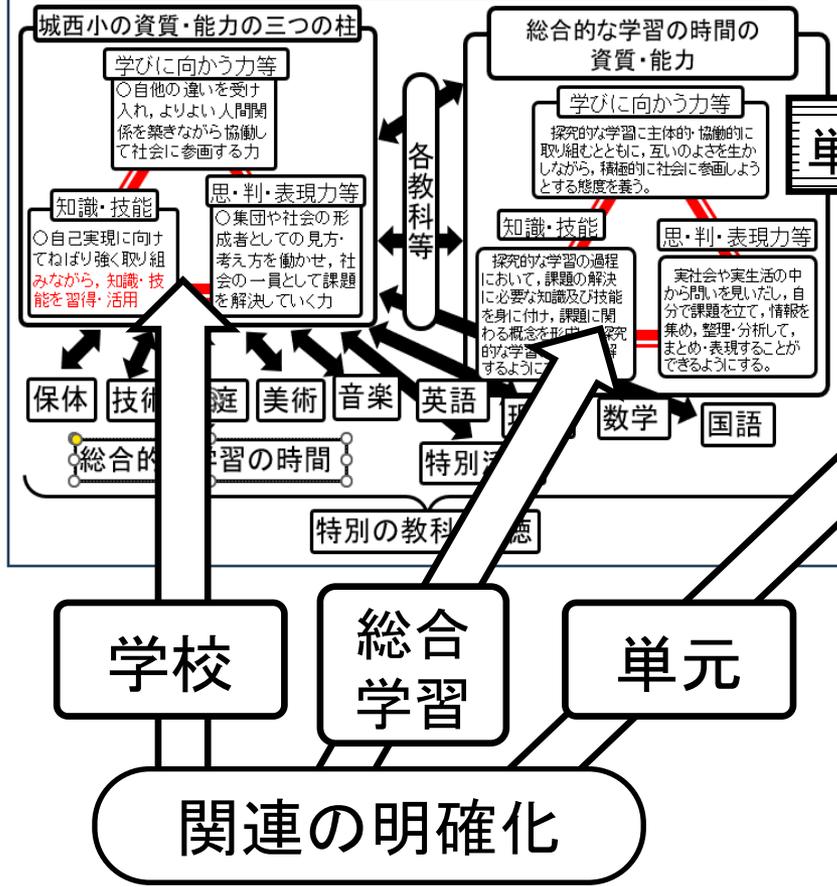
思・判・表現力等

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

各教科等



SDGs 達成のための教育実践に向けた
教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成



単元「わたしたちの住む町」の
資質・能力の三つの柱

学びに向かう力等

- ① 課題解決に向けて、自分や友だちの良さやできることに気づき、身近な人と協働して、探究活動に取り組もうとしている。
- ② 自分と地域のつながりに気づき、自分ができることを見つけようとしている。

知識・技能

- ① 首里地域の文化や歴史を知り、それをささえる地域の人々の思いなどを理解している。
- ② 調査活動や情報収集、集めた情報を比較・分類・整理するなど、探求の過程に応じた技能を身につけ、必要に応じて発揮できる。

思・判・表現力等

- ① 自分なりの興味、関心、疑問から課題を設定し、解決方法を考えて追求している。
- ② 目的に応じた対象を決め、自分たちの身近な所から情報を集め、必要な情報を比較・関係づけたり、取捨選択したりしながら整理している。
- ③ 相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、表現している。

単元化

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指した
カリキュラム・マネジメントに基づくSDGs 達成のための教育実践

ESD の視点を取り入れた見方・考え方及び能力や態度

持続可能な社会づくりの構成概念

多
様
性

相
互
性

有
限
性

公
平
性

責
任
性

連
帯
性

ESD の視点に立った学習指導で
重視する能力・態度

- ① 批判的に考える力
- ② 未来を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

「総合的な学習の時間」の目標(小中共通)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

知識・技能の習得

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

探究のプロセスの中心

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学びに向かう姿勢・人間性の涵養(主体的に学習に取り組む態度)

探究的な見方・考え方を働かせ

資質・能力

横断的・総合的な学習を行うことを通して

よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

○探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。

○実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分類して、まとめ・表現する。

○探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

方法

①課題の設定⇒②情報の収集⇒③整理・分析⇒④まとめ・表現

内容

教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習

現代的な諸課題
に対応する課題

- 国際理解
- 情報 ○環境
- 福祉・健康

地域や学校の
特色に応じた
課題

児童の興
味・関心
に基づく課題

協働的な学習

↑
探究的な学習

探究のプロセス①～④

地域・学校・児童生徒の実態等

「総合的な学習の時間」の「探究的な見方・考え方」

「各教科等における『見方・考え方』を総合的に働かせて、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること。」

教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習内容の具体化

①課題の設定⇒②情報の収集⇒③整理・分析⇒④まとめ・表現

課題に対する予想

多様な視点

協働的な学習

課題の解決に向けた話し合い

思考の観点

①自分との関わり

②自分の生き方

自分・自分たちの考えの明確化

自己の生き方と関連付けた思考

「総合的な学習の時間」の授業づくり

方法

内容

教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習内容の具体化

環境

問題の把握・対策
取組の様子・

国際
理解

取組の様子・交流
・体験活動

人権
福祉
平和

問題の把握・対策
取組の様子・

郷土

地域の特長
取組の様子

①なぜ？

②どのように？」の重視

探究的な学習

(1) 課題の設定⇒(2) 情報の収集
⇒(3) 整理・分析⇒(4) まとめ・表現

- ① 問題や取組の把握
 - ② **なぜ(問題や取組)があるのか？**
 - ③ **予想**
 - ④ 調べる
〔収集・整理・分析〕
 - ⑤ まとめ・表現
 - ⑥ 課題解決への話し合い
- ※①～⑤に共通する課題を設定して考える場の設定
- ⑦ **新たなまとめ・表現**

自己の生き方と関連付けた思考

「総合的な学習の時間」第3学年
単元「わたしたちのすむまち」の実践分析

- (1) 探究的な見方・考え方は、「指導計画のどこに位置付けられていたか」についての確認
- (2) 探究的な学習（現代的な課題を取り上げた探究のプロセスがある学習）は、「指導計画のどこに位置付けられていたか」についての確認
- (3) 教師は(1)、(2)について、「指導案及び授業でどのように表現したか」についての確認
- (4) 子どもは(1)～(3)について、「授業でどのように表現したか」についての確認
- (5) 単元の評価規準に対して、到達状況の確認

研究主題（SDGs達成のための教育実践）
に対しての「よびこみ」達成しているか？

研究成果と課題の明確化と具体化＋改善の方向性

